

Blurring Structure

オフセットされた世界

2025.9.12 — 9.27

高野洋平・森田祥子 (MARU_oarchitecture / 建築家)

金田充弘 (東京藝術大学・Arup / 構造エンジニア)

オカムラ ガーデンコートショールーム

東京都千代田区紀尾井町 4-1 ニューオータニ ガーデンコート 3F

10:00 — 17:00 (日曜祝日休館)

トークイベント

2025 年 9 月 13 日 (土) 15:00 — 17:00 ※要申込

勉強会

「かさなりあう構造とデザイン」
構造とデザインの狭間に置かれた時の
向き合い方について、一緒に考える勉強会

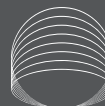
日時：2025 年 8 月 6 日 (水) 18:00~19:30
内容：レクチャー 60 分 / 質疑応答 30 分
講師：金田充弘 (東京藝術大学・Arup)

※トークイベント / 勉強会 / ワークショップは、ウェブサイトより要申し込みになります。

ワークショップ

「素材と光をデザインするランプシェードワークショップ」
オカムラの椅子張地をはじめ多様なメッシュを活用し、
素材と光がつくる輪郭や質感の変化を実験的に探る

日時：2025 年 9 月 18 日 (木) 15:00~17:00
内容：レクチャー 30 分 / ワークショップ 90 分
講師：五十嵐 僚 (株式会社オカムラ)



OPEN FIELD

企画：五十嵐太郎 (建築史家)
主催：株式会社オカムラ



Architects & Engineer

MARU.architecture

高野洋平 (建築家)

1979 年、愛知県生まれ。2003 年、千葉大学大学院修了。2003～13 年、佐藤総合計画勤務を経て、2013 年より森田祥子と MARU.architecture 共同主宰。2016 年、千葉大学大学院工学研究科博士後期課程修了 (工学博士)。2013 年より伊東建築塾に関わる。現在、千葉大学大学院工学研究院准教授、高知工科大学客員教授、京都大学非常勤講師。

森田祥子 (建築家)

1982 年、茨城県生まれ。2008 年、早稲田大学大学院修了。2010～13 年、NASCA 勤務を経て、2010 年、MARU.architecture 設立、2013 年より高野洋平と共同主宰。2011～14 年、東京大学大学院特任研究員。現在、早稲田大学非常勤講師、日本大学大学院非常勤講師。

主な作品に、花重リノベーション (2023 年)、笹島高架下オフィス (2022 年)、生態系と共に生きる家 (2021 年)、松原市民松原図書館 (2019 年)、土佐市複合文化施設 (2019 年)。主な受賞に、日本建築学会作品選奨 2022、第 62 回 BCS 賞、第 4 回日本建築設計学会賞、AACA 賞 2024 優秀賞、日本建築学会作品選奨 2024。著書に、『note.花重リノベーション』(2024 年)がある。



花重リノベーション 写真撮影：関拓弥



松原市民松原図書館 写真撮影：関拓弥

金田充弘 (東京藝術大学・Arup / 構造エンジニア)

1970 年、東京生まれ。1994 年カリフォルニア大学バークレー校環境デザイン学部建築学科卒業。1996 年同大学大学院土木環境工学科修士課程修了。1996 年オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ入社。1997～99 年、2005～10 年、同社ロンドン事務所勤務。2007 年より東京藝術大学美術学部建築科准教授。2021 年より同教授。2024 年より Arup Fellow。2002 年 第 12 回松井源吾賞受賞。

主な構造設計担当作品に、メゾン・エルメス (建築設計：Renzo Piano Building Workshop)、砥用町総合林業センター (建築設計：西沢大良建築設計事務所)、みんなの森 ぎふメディアコスモス (建築設計：伊東豊雄建築設計事務所) など。



みんなの森 ぎふメディアコスモス

Blurring Structure

オフセットされた世界

OPEN FIELD の展覧会を振り返ると、第 1 回は建築家 × テキスタイル・デザイナー × 画家、第 2 回は建築家 × 彫刻家という異分野の組み合わせによって、ガーデンコートショールームの空間を変容させた。そこで第 3 回は建築家の MARU.architecture (高野洋平 + 森田祥子) と構造エンジニアの金田充宏さんのコラボレーションを企画した。これまでと同様、会場となるショールームの雰囲気を残しながら、建築的な場の介入を試みることで、新しい体験をもたらす。MARU.architecture は、松原市民松原図書館や伊賀市旧上野庁舎改修 (現在進行中) などを手がけ、今後のさらなる活躍が期待される建築家である。また金田さんは、レンゾ・ピアノ、伊東豊雄、SANAA らのプロジェクトの構造設計を担当し、デザインの可能性を引きだしてきた。

MARU.architecture が設計した谷中の花重リノベーションを再訪したことが、OPEN FIELD を依頼するきっかけとなった。これは小さいながらも、地域のコミュニティ、NPO、各種のデザイナー、大工、特殊な制作会社など、様々なメンバーと連携したプロジェクトであり、金田さんも構造で関わっている。そこでオカムラとのコラボレーションの展開も考え、第 3 回の OPEN FIELD の参加をお願いした。

彼らから提出されたプランは、既存環境の「リセット」ではなく、「オフセット」することで、あえて解像度を落とした世界をつくること。つまり、こちら側と向こう側を完全には遮断しないさまざまな素材を用い、構造的に自立する薄い膜のような壁をつくり、抽象化、モアレ、反射、ぼかしなどの現象を起こし、無意識化された環境の覚醒をめざす。かつて透かして向こうを見ることは、ルネサンス期に発明された「パースペクティブ (透視図法)」の語源であり、世界を平面に写しとり、正確に計測し、把握する手段だった。しかし、ブラーリング・ストラクチャー、すなわち輪郭を曖昧にする構築物は、空間をはっきりさせないことで、逆に本質をつかむ。もちろん、アートの分野でも、印象派、点描主義、そして抽象絵画の歴史が、類似した効果を追求していた。が、それはあくまでも二次元の表現である。

ブラーリング・ストラクチャーは、三次元の空間体験を伴う、認識の変容装置なのだ。

五十嵐太郎 (本展キュレーター)



OPEN FIELD

OPEN FIELD は、建築・デザイン・アートの領域を横断し、社内外の建築家やデザイナー、アーティストと共に、空間デザインの可能性を探るプロジェクトです。新たな出会いや交流を通じて予期せぬ出来事が生まれることを願い、この名が付けられました。

https://www.okamura.co.jp/corporate/special_site/event/openfield/

